

今月は新潟県長岡市教育委員会の英語指導員として長年活動を続けられている星野さんからの実践報告です。



星野 けい子 さん

J-SHINE 通信

2014年6月号

J-SHINE小学校英語上級指導者
新潟県長岡市教育委員会学校教育課英語指導室 英語指導員(JTL)9年目

■J-SHINE資格及び上級指導者資格取得のきっかけ

新卒で勤めた銀行を、結婚を機に退職。育児に専念するかたわら、今後の人生を考え、高校生の頃から憧れ続けていた「英語を使う職業につく」という夢をかなえる決心をしました。留学経験も海外生活経験もない純国産の英語力でしたが、ここでまたあきらめたら一生後悔すると思い、必死でした。もう一度英語の勉強をし、英検準1級に合格した頃、J-SHINE資格の存在を知りました。始めは「通訳はまだ無理だけど、小学生なら教えられかな。」という甘い気持ちでしたが、勉強すればするほど初期英語教育の難しさに直面しました。しかし、セミナー等で魅力的な先生方のお話を聞きながら、自分の知識が少しずつ深まっていくことに喜びを覚え、「小学校英語の世界で自分の力を生かしたい」という気持ちが強くなりました。そして資格をとった数ヵ月後に、幸運にも長岡市教育委員会のJTL (Japanese Teacher of Language) として採用され、2006年春から今日まで小学校外国語活動に携わってきました。また2009年には、上級指導者資格も取得しました。

■現在の活動状況

長岡市では、9人のJTL (長岡市ではJTEではなくJTLと呼びます) が市内の全小学校60校を訪問しています。昨年度までは長岡方式 (ALTとJTLのペアで訪問し、学級担任と3者でTT) と呼ばれる訪問形態でしたが、今年度からJTL単独訪問に切り替えることになりました。HRT (学級担任) としっかり打ち合わせをして、児童の実態にふさわしい活動ができるJTLの良さが評価されたからだと思います。教科化に向けて、HRT主体の外国語活動を支援することが、今後ますます望まれるであろうと確信しています。

では、JTLの仕事についてです。

①授業はまず打ち合わせから

年度初めに、各校の外国語活動の先生と訪問日程を作成し、授業の打ち合わせの時間を確保します。良い授業をするためには打ち合わせが不可欠だからです。「打ち合わせをしっかりすると授業が違う。子どもたちの顔も違う」ことを先生が実感されると、忙しくてもお昼休みや放課後にしっかり打ち合わせができるようになります。

②HRTとのTT

授業中のJTLの役割は、発音のモデル、活動のやり方の実演、児童の意欲喚起など、多岐にわたります。質の高い活動を常に

提供できるように、児童の様子を観察し、授業の振り返りを行い、それらを記録に取るなどの努力をしています。

③給食

給食を児童たちと一緒に食べるので、思いがけず授業で使える貴重なヒントをもらうことがあります。「もうすぐ自然教室だ」という声を聞き、児童たちが宿泊する「自然の家」で出されるメニューでランチの単元をすることにしたら、一気に意欲が増しました。

また、児童たちの生の声を聞ける時間でもあります。「楽しい活動ができた」と満足していても、「シールがもらえず悔しかった」という思いを残している児童がいたり、TTの役割分担がうまくいかなかったときは、「先生、今日、全然活躍してなかったね」と鋭く、しかし無邪気に指摘してくれたりします。

④学校訪問以外でも…

訪問のない日や長期休業期間は、単元開発や実践事例集など冊子の作成、先生向けの研修のインストラクター、小学校5・6年生対象の当市事業「キッズイングリッシュアカデミー」の企画・運営など、まだまだ業務はたくさんあります。また、月1度ある研修会では、お互いの授業を参観して協議したり、授業のアイデアを練ったりするなどして、指導力を向上させています。

盛りだくさんな日々ですが、児童が「わかった」「できた」という気持ちになった時に見せる表情が大好きです。これこそが、長年この仕事を続けてこられた原動力です。ですから、打合せの時は、活動の中で期待する児童の姿を思い浮かべながらアイデアを提供するようにしています。そこにHRTの思いのこもったスパイス (関わり方、ルールなど) が加わることで、児童たちが授業中に見せる姿は一段と生き生きするのです。その瞬間をHRTと喜び合えるのは最高です。でもこれは、HRTとの信頼関係があってこそ成り立ちます。信頼関係を築くには努力と時間が必要ですし、私がかつとも力を注ぐところです。

■今後の展望・課題・目標

今年度からJTL単独訪問主体となり、学校、先生、児童の反応が直に伝わってくるようになりました。自分の授業力、人間力がALTを介さず直接評価されるため、厳しさもありますが、今までにないやりがいを感じている日々です。TTの一員として、さらに自分の力を高めるため、積極的に市内外の研修や学会にも参加していこうと思います。そして、「先生の授業は分かりやすくて面白い」と1人でも多くの児童やHRTに言ってもらえることが私の目標です。